

知っておきたい 診療技術

開腹しない手術 泌尿器科レーザー治療



泌尿器科部長
山岸 貴裕



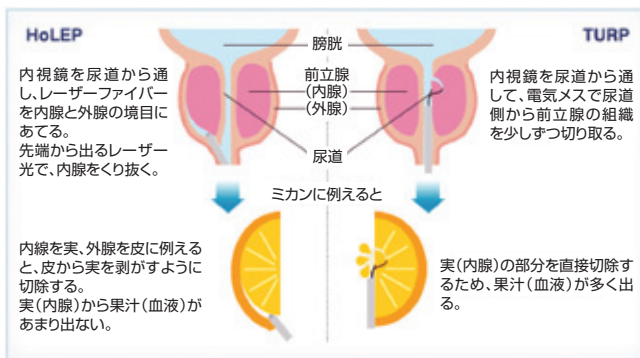
ホルミウム・ヤグレーザー装置

泌尿器科では、平成25年8月に県内で最初に高出力のホルミウム・ヤグレーザー装置を導入しました。対象疾患は前立腺肥大症と尿路結石です。この高出力レーザー装置の一番の特徴は、大きな前立腺でも開腹せずに前立腺肥大症の手術が行えることです。2018年4月現在、県内でこの手術を受けられるのは当院と信州大学医学部附属病院

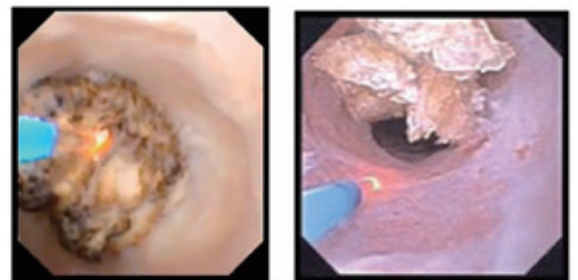
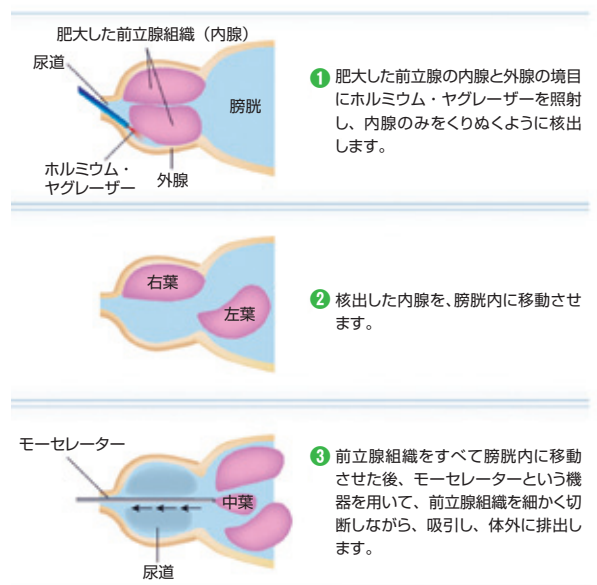
のみです。

【前立腺肥大症の場合】

レーザーを前立腺の肥大した部分と外側(外腺)の境目に当て、肥大した部分を外腺から切り離し、一度膀胱内に移動させます。別の機械で膀胱内の腺腫を細かくしたのちに尿道から吸い出します。この手術はHoLEP(ホーレップ)手術といえます。従来の経尿道的前立腺切除術(TURP)に比べて出血が少なく、術後早めに尿道の管を抜くことができるため、入院期間が短く、



従来のTURPと新しいHoLEP手術との比較



尿路結石(左)とレーザーで破碎した結石(右)

合併症の少ない手術です。普通の大きさの前立腺肥大症はもちろんのこと、開腹手術で行われていたような大きな前立腺肥大症にも対応できます。

2015年の手術件数は74件で、全国14位の実績があります。

【尿路結石の場合】

尿路結石は、結石の大きさや場所によって手術方法が変わります。多くは体外衝撃波で治療しますが、結石が1回で破碎できなかったり、結石がレントゲンで見えないと治療ができないなどの欠点があります。

そのため、当院では、ホルミウム・ヤグレーザー装置を利用して碎石する経尿道手術も行っています。これは、尿道経由で尿管まで内視鏡を挿入して、結石をモニターで見ながらレーザーで破碎する方法です。経尿道手術は、結石に直接レーザーを当てて割ることができるため、破碎効果が高いことが特徴です。手術は全身麻酔下で行い5日程度で退院できます。

当院では、結石の場所や大きさに応じて両者を使い分けて治療することが可能です。